



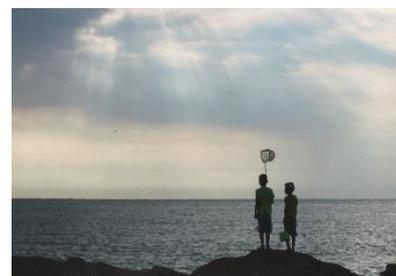
●11月6日（月）、南下浦小学校3年生が、魚市場、西松さん、うらりの魚音さんの見学をしました。西松さんでは、マグロの加工の様子を見た後、-60℃の冷凍庫に入りました。ものすごい寒さに、子どもたちは大興奮で、ゴジラのように、息を吹きだす子どもたちもいました。「どうやって、-60℃にすることができるのか」など、鋭い質問もありました。その後、うらり内の魚音さんへ。店長の高橋さんから、マグロについて詳しく聞くことができました。



●これから、今年度の海洋教育写真コンテストの

入賞作品とその講評を紹介していきます。

右上は、A部門（海の生き物部門）の最優秀賞の作品です。タイトルは「ファッションモンスター」。南下浦中学校2年生、熊谷拓海さんの作品です。ウミウシの一瞬の姿をとらえた一枚です。青い鳥が羽ばたいているような不思議なフォルム「これがウミウシ!？」という驚きが伝わってきます。黄色系の背景の色とは正反対に近い色相が、よりウミウシを際立させています。右下は、B部門（海の風景とくらし部門）の最優秀作品です。タイトルは「夕日を浴びる少年たち」。三崎中学校1年生、石塚光一さんの作品です。荒井浜の夕方の海。雲の切れ間や端から太陽の光が漏れて、放射状に地上へ降り注いで見える現象を「薄明（はくめい）光線」または「天使のはしご」とも呼ぶのですが、その「天使のはしご」をバックに、少年たちの姿が見事に浮かび上がっている作品です。



左上は、A部門の特別賞です。タイトルは「ようこそ三浦の海へ」。名向小学校6年生、山縣絆奈（はんな）さんの作品です。「ユニークなアイデア」「構図の工夫」「シャッターチャンスへの努力」良い写真を撮ろうという気持ちが伝わってくる作品です。海の「青」に、ウの「黒」とカモメの「白」が一層美しく際立っています。同じような色合いのドローンや、カモメが仲間だと思っていたら面白いですね。左下は、B部門の特別賞です。タイトルは「光る海と富士山」。名向小学校3年生、内海翔太さんの作品です。夕焼けと富士山を、小網代港から撮影したものです。この作品は、夕焼けの「赤」、影の「黒」、明るさのコントラストが幻想的な雰囲気を醸し出しています。遠くに見える富士山も印象的です。時間の流れをゆっくり感じ、いつまでもその場にいたくなるような作品です。



（文責 事務局長 渋谷）

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所（854-9443）まで